

## 宇都宮市立桜小学校 第5学年 児童質問紙調査

### ★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

#### 【学習に関する項目について】

○本を読んでいる児童が多く、市の平均を大きく上回っている。読書に対して前向きに取り組むことができている。10冊以上と回答している児童の割合はどちらも市や県の平均を大きく上回っており、児童の読書への意欲の高さが伺える。

○「グループなどでの話合いに自分から進んで参加している」の肯定割合は82.9%で、市や県の平均を5ポイント以上上回っている。このことから、話合いに意欲的に取り組む態度が身に付いていることが分かる。

○「家で勉強するときに、だいたい同じ時こくに取り組むようにしている」「毎日、同じぐらいの時こくにねている」の質問についても市や県の平均を上回り75%以上と肯定割合が高く、規則正しい生活習慣が身に付いている様子が伺える。

○「クラスの友達との間で、話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている」の肯定割合は90.4%で、市や県の平均を10ポイント以上上回っている。授業や学校生活の中で、友達同士で多様な意見のやり取りをしながら、自分の意見を再考して深められていることが分かる。

●「家で、学校の授業の予習をしている」の肯定割合は40.4%で、「家で、学校の授業の復習をしている」の肯定割合は44.7%と、市や県の平均を10ポイント以上下回っている。勉強の計画や予習復習の内容について具体的な例を示しながら指導し、宿題以外の家庭学習にも意欲的に取り組めるようにしていくとともに、家庭と連携して家庭学習の習慣を定着させていきたい。

●「難しい問題に会うと、よりやる気がでる」の肯定割合は46.8%で、市や県の平均を5ポイント以上下回っている。問題を見て難しいと感じてしまうものに対してはあらかじめ問題を多く、分からない問題が出てきたとしても、習った知識を生かしながら少しずつ積み重ねて問題にチャレンジすることができるように励ましていきたい。

#### 【自分自身のことに関する項目について】

○「自分によいところがあると思う」の肯定割合は85.1%、「むずかしいことでも、失敗をおそれないでしよう戦している」では80.8%と、市や県の平均を上回っている。今後も引き続き児童の自己肯定感を高めながら、何事にも自信をもって活動に取り組んでいけるよう、励ましながら支援していきたい。

●「家の人は、あなたがほめてもらいたいことをほめてくれる。」や「自分は家族の大切な一員だと思う。」の質問に対し肯定している児童の割合が市の平均と比べ約7～10%下回っている。自己肯定感を高めるためにも、家庭での会話の中で児童を認めたり、褒めたりする機会を増やすことができるよう便りや懇談会等で呼びかけていく。

## 宇都宮市立桜小学校（第4・5学年共通） 学力向上に向けた学校全体での取組

### ★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
授業におけるめあて・まとめ・振り返りの充実	授業のめあてを明確にし、振り返りをきちんと行う学習サイクル「さくらの学び」の取組	「授業のめあてがしめされている」の肯定割合が4年生81.8%5年生89.4%。4年生が市の肯定割合より低く、5年生はほぼ同じ結果であった。

### ★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
「授業の最後に振り返りの学習をよく行っている」の肯定割合は、4年生5年生がそれぞれ63.6%、56.6%で市の平均を下回った。めあてに比べて振り返りの肯定割合が低い。	児童視点でしっかりとめあてと振り返りを行う学習サイクル「さくらの学び」の実施	・学習のめあてが教師主導にならないように、児童とともに考え設定するようにする。 ・単元を通した振り返りの累積をしていく。 ・振り返りの視点を示し、自主的な学びにつなげる。